

体育科学習指導案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和2年9月18日(金) 第1校時 熊野第四小学校体育館
- 2 学年 第6学年○組
- 3 単元名 「笑顔でつないで 1・2・3」
E ボール運動 イ ネット型

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編第5・6学年「E ボール運動」「イ ネット型」を受けて設定した。ボール運動では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること(知識及び技能)や、ルールを工夫したり、自己のチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えること(思考力、判断力、表現力等)、運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりする力(学びに向かう力、人間性等)を育成することをねらっている。

(2) 教材観

ソフトバレーボールは、ネット型の運動である。運動の特性として以下のようなことが挙げられる。

- ・2つのチームがネットを挟んで、手でボールをはじいたり打ったりしながら攻撃を組み立てて、相手チームと得点を競い合うことを楽しむ運動である。
- ・攻撃時と守備時がネットを挟んで区別されるため、相手に邪魔されることなく、自分たちで作戦を立て、それをゲームに反映できる。
- ・相手チームとの接触がないので恐怖心が少なく、自分の思い通りの動きがしやすいので、気軽に楽しむことができる。
- ・ルールが簡単で、自分たちの力に応じたルールや場を工夫しながらゲームができる。
- ・得点ごとにプレーが止まるので、チームの仲間と励まし合い教え合いながら、自分たちの作戦を試すことができる。
- ・どうすればチームが勝てるか話し合い、練習を工夫して課題を解決することができる楽しく一体感が生まれる。

(3) 児童観

児童の実態についてアンケートをもとに記載しています。

児童の実態についてアンケートをもとに記載しています。

(4) 指導観

指導にあたっては、経験の少ないネット型のボール運動なので、以下の点について工夫して指導をしていく。

- ①単元を通して、授業の始めにボールを打ったりパスをしたりする運動をゲーム化して行い、ゲームを楽しむための技能を身に付けられるようにしていきたい。特にボールをつなぐための基礎技術を身に付けさせ、仲間とパスをつなげる楽しさを味わわせたい。
- ②児童の実態に合わせたルール作りをする。ワンバウンドレシーブやキャッチを認める易しいルールを提示する。授業が進む中で適宜ルールを変更していく。
- ③**チーム練習でのボールの操作や動きなどを確認させ、試しのゲームを振り返る中で作戦を立てさせ、試合に臨ませる。ただし、自分たちの動きが分かりにくいので、練習や試合の際に兄弟チームを作り、アドバイスし合うことができるようにする。**

5 単元の目標

知識及び技能	ソフトバレーボールの行い方を理解するとともに、基本的なボール操作（サーブ、レシーブ、トス、アタック等）を身に付け、チームでボールをつないでゲームをすることができる。
思考力、判断力、表現力等	誰もが楽しくゲームに参加できるようにルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じて練習や作戦を選んだり、自己や仲間が考えたことを他者に伝えたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	積極的に運動に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ネット型のゲームの行い方を知ることができる。・基本的なボール操作をすることができる。・ボールを持たない時の動きを行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・誰もが楽しくゲームに参加できるようにルールを工夫することができる。・自己やチームの特徴に応じて練習や作戦を選ぶことができる。・自己や仲間が考えたことを他者に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・積極的に運動に取り組もうとしている。・ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めようとしている。・場や用具の安全に気を配っている。

7 指導・評価計画案 (全8時間)

次	第1次	第2次			第3次			第4次
時数	1	2	3 (本時)	4	5	6	7	8
学習の流れ	0分	①整列・挨拶・準備運動・場の準備						ソ笑六 フ顔年 トでー バつ組 しな い ボー ール 大会
	45分	②うまくなりタイム			②うまくなりタイム (チームの課題に応じて内容を考える)			
		パスパス大作戦	サーブ・サーブ	ねらってサーブ	③試しのゲーム1			
		サーブサーブ	ねらってサーブ	アタック・アタック	試しのゲーム2			
		③アドバイスタイム						
④ミニゲーム (うまくなりタイムの内容)			④アドバイスタイム					
⑤振り返り・片付け・挨拶など								
主 価 規 準	知・技		○	○	○			
	思・判・表					○	○	
	学びに向かう	○						○

8 本時の学習展開

(1) 本時の主な目標

- ・チームや個人の課題に合った練習を行い、技能の向上を図ることができる。(知識・技能)

(2) 学習の展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価 (☆) 【評価方法】
1 チームで運動の場や用具の準備, 準備運動をする。	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ◎ 共生の視点	
2 学習内容を知りチームや個人のめあてを立てる。	◇チームワークを高めるために、班ごとに準備運動を行うようにする。	
3 うまくなりタイムでサーブの練習をする。	サーブの練習をし、ねらったところへ打つことができるようになる。 ◇2種類の練習を提示し、チームごとで話し合い、練習計画を立て、それに応じて個人のめあてを立てさせる。	
4 アドバイスタイム	◇サーブサーブ…ネットをはさんで相手コートへ山なりのふわっとしたアンダーハンドサーブを意識させる。 ◇ねらってサーブ…相手コートのどこにサーブを打つかを意識してアンダーハンドパスの練習をさせる。 ◆最初の段階では、どこからサーブをしてもよいとする。それでも入らない場合は、両手で下から投げてもよいとする。	
5 ミニゲームをする。	◎ チームや兄弟チームで助言をし合う。 (よい助言があった場合は、後で全体に広げる。)	
6 振り返り, 後片付け, あいさつをする。	◇「ねらってサーブ」の得点を集計する。 ◇次時につなげるために、本時で出た課題を確認し、学習意欲を高めるようにする。	☆ねらってサーブの得点等 (知識・技能) 【行動観察】 【ワークシート】